

校長室の窓から

平成31年2月

< 校訓 >

いのちを大切にしよう
 きまりを守ろう
 進んでことにあたらう
 相手の立場に立って考えよう



徒然草 ~第150段~

徒然草は、作者である吉田兼好が自身の経験から得た考えや逸話などを書き綴ったとされる随筆で、清少納言『枕草子』、鴨長明『方丈記』とならび日本三大随筆の一つと評価されています。「つれづれなるまゝに、日ぐらし硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとをそこはかとなく書き付ければ、あやしくこそ物狂ほしけれ。」の小序はよく知られていますが、その他243段からなると言われている作品です。今回は、その150段を紹介いたします。徒然草が書かれたのは14世紀前半(鎌倉時代)。今から約700年前に書かれたものですが、現代にも大いに通じる内容ではないかと私は思うのですが、みなさんはどう思いますか？

第150段 能をつかんとする人、・・・

能をつかんとする人、「よくせざらむほどは、なまじひに人に知られじ。うちうちよく習ひ得てさし出でたらむこそ、いと心にくからめ」と常にいふれども、かく言ふ人、一芸も習ひ得ることなし。

いまだ堅固かたほなるより、上手の中に交りて、そしり笑はるゝにも恥ぢず、つれなくて過ぎてたしなむ人、天性その骨なけれども、道になづまず、みだりにせずして年を送れば、堪能の嗜(たしな)まざるよりは、終に上手の位にいたり、徳たけ人に許されて、ならびなき名を得ることなり。

天下のもの上手といへども、はじめは不堪(ふかん)の聞こえもあり、無下の瑕瑾(かきん)もありき。けれども、その人、道の掟正しく、これを重くして放埒(ほうらつ)せざれば、世の博士にて万人の師となること、諸道かはるべからず。

<現代語訳> ……色々現代語訳されていますが、その一例を紹介します……

これから芸を身につけようとする人が、「へたくすなうちは人に見られたら恥ずかしい。人知れず猛特訓して上達してから芸を披露するのが格好良い」などと、よく勘違いしがちだ。このような事をいう人が芸を身につけた例は何一つとしてない。

まだ芸がへたくすなうちからベテランに交ざって、バカにされたり笑い者になっても苦にすることなく、平常心で頑張っていれば才能や素質などいらない。芸の道を踏み外すことなく、我流にもならず、時を経て、上手いのかしらないが要領だけよく訓練をナメている者を越えて達人になるだろう。人間性も向上し努力が報われ、無双のマイスターの称号が与えられるまでに至るわけだ。

人間国宝も、最初はへたくすだとなじられ、ボロボソなまでに屈辱を味わった。しかし、その人が芸の教えを正しく学び、尊重し、自分勝手にこなさなかったからこそ、重要無形文化財と称えられ、万人の師匠となった。どんな世界も同じである。

【吹奏楽部】

第46回兵庫県アンサンブルコンテスト
 東阪神地区大会 TB3重奏 金賞
 東 虎伯・中本 彩香・富谷 友音
 ソロコンテスト(優秀賞)
 片山 明日香(サクソ)
 中川 奈々実(トランペット)
 経塚 友乃 (フルート)
 中倉 千裕(パーカッション)
 川端 小々音(チューバ)
 中嶋 喜和 (オーボエ)

【陸上部】

尼崎市中学校女子新人駅伝大会
 総合 第3位 48分48秒
 行安 亜芽莉・増田 紗那
 上田 鈴・福島 叶
 西村 光冬
 区間賞
 1区 第3位 行安 亜芽莉 11分43秒
 2区 第2位 増田 紗那 7分40秒
 3区 第3位 上田 鈴 8分4秒

【兵庫県小・中・高校絵画展】

選 西良 由紀子「チグリジア」
 瀨崎 乙葉「空を食べたクジラ」
 金森 優「体育館シューズの
 デッサン」

【サッカー部】

尼崎市理事長杯 第3位

百人一首大会 ~1年生・2年生~ 1月30日(水)・31日(木)

毎年恒例行事になっていますが、今年度も百人一首大会を実施しました。残念ながらインフルエンザ流行のために、1年生はクラス単位で各教室での実施となりましたが、2年生は予定通り1月30日(水)に体育館で実施しました。結構、底冷えのする時でしたがみんな元気いっぱい、そして、真剣に札と向きあっていました。1年生は来年を楽しみに！



2年生



1年生

【2年生結果】

	クラス
優勝	4組
準優勝	5組
第3位	3組

【個人】

優勝	山下 侑吾
準優勝	出水 将大
準優勝	川中 康輝
第4位	石原 愛
第5位	岡田 和花
第5位	原 一星
第7位	藤生 杏莉
第8位	福原 通仁
第9位	佐竹 弘樹
第10位	戸田 晴花



落語家の古今亭今輔さんという方が「迎いの拍手は昨日までの人気、降りる時の拍手は今の人気」という言葉を残しているそうです。

出陣子とともに高座に出てきた時にもう拍手は過去の実績に対するもので、出し物が終わって舞台を降りる時にもう拍手は、今披露したことに対する拍手(評価)だということですね。今やるべきことをしっかりとやりなさいという戒めの意味にもとれると思います……

平成30年度もあと少しとなりました。「平成」と呼ばれる最後の年度でもあり、まさに、総まとめを行う時ではないでしょうか。「やるべきことをしっかりと行えただろうか?」「思うような結果がでただろうか?」など、それぞれ、この1年を振り返ってみてほしいと思います。うまくいったことは自信をもって次年度に継続していけばいい。うまくいかなかったことは、「どうしてダメだったのだろうか?」「次はこうしてみよう」と、ひと工夫して、また、次年度でチャレンジしていくください。

3年生は武庫東中学校での生活もあと1ヶ月です。中学校生活、義務教育のしめくりです。学年末テストが終わると、卒業式の練習も始まります。3年前、入学式では「小学校6年間ご苦労さまでした。ようこそ武庫東中へ。」という歓迎の気持の拍手で迎えられました。そして、3月8日は「よく頑張ったな。おめでとう。いい卒業式でした。」と、中学校生活での君たちの頑張りに対する思いのこもった拍手で送り出してもらえるような卒業式にしてほしいと思います。

中学校生活も残りわずかです。自分の進路実現にむけて気力をふりしぼらなければならない大切な時期であることは言うまでもありませんが、武庫東中学校の最高学年として、今やるべきことを最後までしっかりと責任をもって果たしてください。そうすれば、みなさんが送ってきた中学校生活に対する拍手(評価)が自然とわいていくはずですよ。「立つ鳥跡を濁さず」という言葉もあります。いい卒業式にしましょう。